

商工青年部

祭り「裏側」に密着。

2万人の来場者で活気と熱気に包まれた今年の「があっば祭り」。そんな祭り成功の裏側には、人目につかない所で祭りをサポートする人たちがいます。そんな縁の下の力持ち「御船町商工会青年部」にスポットをあてながら、「まもレンジャー」誕生秘話、住民主体のまちづくりなどのインタビューをお伝えします。

御船町商工会青年部

昭和42年設立。部員22名。地域振興の発展や、新しいまちづくりを目指し活動中。精霊流し、地藏まつりなどにボランティアとして参加し、地域イベントを全面的にバックアップ。特に、があっば祭りでは、「御船があっば戦隊まもレンジャー」ショーを披露し、多くの子どもたちに絶大な人気を博す一方で、特色ある祭りへのシフトにも貢献している。

× Kazuhiro Fujii × Takahiro Kimura



藤井 和宏 副部長
滝川・32歳
商工会歴 4年5カ月



木村 貴洋 幹事長
滝川・30歳
商工会歴 7年5カ月

Goro Yamada × Shigenori Kawaguchi



山田 五郎 部長
滝尾・37歳
商工会歴 12年5カ月



川口 重徳 副部長
滝尾・36歳
商工会歴 11年5カ月



7月31日、町内の幼稚園や保育園を訪問して、祭りの宣伝をする商工会青年部。園児たちへ内緒にした突然の訪問に園児は歓喜の大パニック。園児たちの心をしっかりとキャッチ。

女性の活力を青年部へ!

商工会青年部では、商工業を営む40歳以下であれば誰でも入部できます。今年9月に、青年部に待望の女性部員が加わりました。そこで、入部されたきっかけなどの話を伺ってみました。



田代 亜樹 さん
(熊本市・34歳)

ボランティア活動への参加
人と人のつながり大切に

御船町内の居酒屋に勤めて15年。伯母(門岡久子さん・御船)からの勧めもあって青年部へ入りました。あまり人との付き合いが多くない私は、引っ込み思案な性格でしたので、人のためになるボランティア活動をして少しでも改善できればと入部を決めました。青年部は比較的年齢も近く、ボランティア活動しやすい環境ですし、同じ商工業者としての悩みも共有できると思います。これらから本格的に活動へ参加しますが、人と人のつながりを大切にしていければと思います。

広報 まちが活性化するために、青年部ではどのようなことが必要だと思いますか。
山田 御船は恐竜が有名ですが、少しPRが足りないような気がします。上手に発信すれば観光客を御船へ呼び込むことができます。ただし恐竜以外で、観光の目玉となるものが乏しいです。人を呼び込むための観光資源の掘り起こしが大切ですね。
藤井 より多くの関係団体が話し合い、意見を出し合って、いいものを作っていくための連携が必要です。
川口 何をするにも型にはまっているんですよ。この殻を誰も割ろうとしません。これが、活性化しない要因です。青年部はレンジャーをしたことで自分達の殻を割りました。みんなで行動に移して欲しいです。
広報 まもレンジャーが祭りで大

好評でした。これを機に活動の幅を広げられる予定はありますか。
木村 レンジャーショーって、上益城郡でほかにはないじゃないですか。上益城郡のいろんなイベントに参加して、どんどんPRしたいですね。
山田 10月30日から11月1日まで、県物産フェアがグランメッセ(益城町)であります。そこでレンジャーショーの披露を現在検討中です。
藤井 要望があれば、出向いて交流を図っていければいいですね。
広報 青年部では今後、住民主体のまちづくりをどのように考えながら取り組まれていきますか。
山田 自分達でできることは自分達でやっつけていけばいいですね。当然、青年部で出来ることは青年部でやっていきます。
藤井 出来ることから始めたいのがあるかもしれないですね。

川口 町全体で行動にどう移させていくかが課題です。行動しようとならない体質を変えることが重要です。
木村 行動を起こすことですね。反対意見も当然あると思いますが、最初から否定せずに1回でも行動することが大切だと思います。やってみなければ何もわかりませんから。
広報 最後に、青年部から皆さんメッセージをお願いします。
山田 青年部は現在22名で活動していますが人手不足です。女性も部員に入ってもらいたいんです。
川口 若い人の意見を町政に反映させたいです。
藤井 青年部の活動を多くのの人に知っていただいて、協力していただけたらいいですね。
木村 「日本一の御船町」をつくるために頑張ります。

広報 「まもレンジャー」ショーも今年で2回目ですが、始められたきっかけを教えてください。
山田 4年前にレンジャーショーの予算がカットされて無くなりました。そこで、「子どもたちのために自分達で出来ることをしてみよう」と部員で話し合っって復活させることをきめました。
川口 レンジャーショーの復活をみんなが納得して決めてしたことがよかったですね。
藤井 けれど、本当にいいものができるかって逆に不安もありました。それぞれに役が与えられますし、周りとのコンビネーションとかもありますから...。
広報 「まもレンジャー」ショーの企画や練習、道具製作で苦労された点がありますか。
川口 戦闘シーンはシナリオにありません。いろいろな意見を出し合いながら演技を決めます。戦闘シーンの動きを工夫したり、台詞を増やしたり、試行錯誤しながらやっていくことが大変です。最初のころの練習とは全然違った演技に完成していきますね。
藤井 普通に台本どおりにやったらショーもすぐに終わってしまいますから、内容を肉付けして20分間と決められた枠までもっていくことが大変ですね。
木村 (昨年の)1回目は自分達で衣装や道具の費用を出費しましたので、どうしても金銭面は負担となりました。足りない道具も部員で作ったり、衣装の縫い物は部員の奥さんを手伝ってもらいました。
山田 舞台の大道具班と、ショーの出演班の2班体制に分かれて作業を完全に分担する工夫を取り入れました。
広報 青年部の活動で苦労されていることはありますか。
山田 祭り前日の準備は大変です。お祭り広場周辺や露店場所の深夜警備があります。ほかに、まもレンジャーの練習日程の調整ですが、それぞれに仕事を持っていますので、準備や練習の時間帯が夜になつてきます。家庭のある部員には、家族にも負担となっている気もします。
川口 みんな青年部ばかりでなく、消防団などの各種団体にも所属しています。会議などが重なってくるなかでのやりくりが難しいですね。



「まもレンジャー」ショーの企画打ち合わせは祭りの約3か月前からスタートする。ショーの出演者と大道具製作の2班体制で準備が進められる。出演者の練習は、町商工会館や御船中学校体育館などを使用して、週2~3回で午後7時30分から約2時間のスケジュールで行われる。